

令和3年度(2021)の学校評価集計結果から次年度に向けて

- (1) 児童生徒の集計結果から(別紙)
- (2) 保護者の集計結果から(別紙)
- (3) 保護者の記載内容から

学校評価として、児童生徒のアンケート結果、保護者のアンケート結果、そして更に保護者の記載した内容を公表すると共に、学校の考えを発表します。

◎児童生徒アンケートの集計結果から

・今年度のアンケート結果をみると、コロナ禍にもかかわらず、子ども達は頑張っている姿が見えてきます。見方を変えると、コロナ禍だからこそ学校が大切な場所となったと考えられます。学校は、子ども達にとって「オアシス」でなければならないと良く言われますが、正にその通りです。特に在外で、更にコロナ禍で、学校の果たさなければならない役割は幅広く多岐に渡っています。

■「4：先生は児童生徒に対し、公平に接している。」と感じていない子がいるところが気になるところである。

◆このように子供が思っていること自体が問題であると言える。どのような状況であっても、私たち教職員は公平さを担保しなければならないし、そのような態度は慎むべきである。

◎保護者アンケートの集計結果から

・今回の結果から、気になる点がたくさん浮上したことがまず挙げられます。以下細かく挙げてみることにします。

■「3：子どもは、宿題や自主学習に取り組んでいると思う。」余りそう思わないとの意見が多かったです。

◆家庭学習は学校と保護者の協力体制が必要な項目の一つです。特に、宿題の習慣化、自主学習の課題設定等々、自主性を重んじる内容ではありますが、今後教師と保護者とで考えて行ければと思います。

■「4：子どもは、学習の忘れ物がないように気を付けていると思う。」余りそう思わないとの意見が多かったです。

◆家庭の問題とは一概には言えないところに問題が潜んでいると感じています。各学級では忘れ物をしないように様々な取り組みを行っています。しかし、学校でいくら取り組んでも、実行する場は家庭です。担任は学級だより等で保護者に呼びかけてはいますが、このことも学校と保護者の共通認識が必要であると思います。

■「5：子どもは、人の話や説明を聞く態度が身についていると思う。」余りそう思わないとの意見がありました。

◆聞く態度が身につくためには何が必要でしょうか。道徳的な態度を養うことも重要でしょうか。

相手を敬う態度を育てることも重要です。また真に聞きたいと思う時、子どもの態度は真剣な姿に変わってくるのではないのでしょうか。子ども達は確実に成長しているとは思いますが、このところは関心を高めて見ていく必要があると思います。

◎保護者の記載内容から

【学校行事の実施について】

■授業参観や行事などがかなり中止され、学校での様子がよく分からないところが正直な感想です。そのため、全体的に評価の判断材料が十分ではないように思います。もっと普段の姿を見たかったです。保護者としてはこう感じましたが、子供自身は毎日楽しく通っていましたので、有難く思います。

■コロナ禍でも行事がたくさんできて、子供はとても喜んでいきます。先生方は工夫をたくさんして下さり、準備も大変だったと思います。ありがとうございました。

◆本校の学校行事は、学校だけでは出来ないものばかりです。

・今年度は、PTA 正副会長と学校が定期的に打合せ会を持って、学校行事や PTA 行事について意見を交換しました。その結果、保護者の思いや協力を得ることができ、保護者と学校が同歩調で学校行事を進めることが出来ました。

・ことあるごとに PTA 正副会長様と話をすることは、今後とも進めていきたいと考えています。

●今年度は、学校行事がとくに出来なかったという認識はないと考えています。学校行事をそのまま実施出来たものは少なかったが、形を変え、実施方法を工夫する中で授業参観以外は実施できたので、このひどいコロナ禍にあっては、学校行事は良く出来たと考えているところです。

【コロナ感染拡大防止策の実施について】

■コロナ禍における学校生活上のルール設定のあり方は、保護者にとっての重大関心事の一つであるところ、例えば歯磨き指導につき「いかなるルールを設定するのか」に関する事前の説明を求めたが「詳しくは決まっていない」との回答があった後、その後のフォローないまま歯磨き指導が開始していた。その他にも必ずしも説明が丁寧であったとは感じられない場面が思いあたる。もっとも最近では以前に比べると丁寧な説明を心がけるようにしていただくようになったとは感じており、その点には感謝しています。

■コロナ関係の規則をしっかりと守りながら行事を行って下さるので安心です。

◆本校は、学校内で濃厚接触者を出さないことを目標に、日々取り組んできました。

・ベルリン州から出されるコロナ感染拡大防止策（規則）に当てはめながら、時にはより厳しい目で見ても校内規則をつくり対応してきました。

・特に3学期は、ベルリン州での感染が拡大しており、そのに伴い本校でも子ども達から感染者が出てしまいました。学校外で感染する事はいたしかたないが、校内で感染（クラスター）を拡大させることは許されないという大きな使命感をもって対処してきました。結果学校内でのクラ

スターは起こってはいないと考えています。

●今後も、濃厚接触者を出さない取り組みを実施していくことが重要だと考えています。

【進路指導について】

■中学2年生の生徒1人ということで、大変ぜい沢な充実した授業を受けられているようです。高校受験に向けた進路指導のようなものもして頂けると大変有難いです。

◆本校の進学指導は、職場体験（職業体験）を含め、小学部からのキャリア教育の中で実施している。特に小学部での「夢の実現」に関する活動は重要だと考えています。

- ・中学生の進学指導は、どこの高校に進学したいのかを具体的に決めていくということです。本人の希望や特性を鑑み、更に帰国仕手の地域の進学可能な学校を探し出すことが指導内容となると思われます。本校では中学生は実力テストを年間3回実施して、進学指導の資料としています。
- ・中学3年生は、具体的な希望校を保護者と相談して決めていき、資料を取り寄せ、教育委員会やその学校事務局と連携しながら、具体的な進路指導をしています。

【学校だより、学級だよりのデータ送信化について】

■学校便り・学級通信は紙ではなく、メールでいただくと手元に届くのですが、紙だと写真も白黒で分かりやすいので、メールでカラー写真が見られると良いと思います。

■学級通信、もう少し充実させて頂ければよいかと。

◆現在、学校だよりはメールで送信（配信）しています。しかし、学級だよりは紙文書で配布している状況です。学級だよりは、写真がたくさん使われているのだが、予算の関係からカラーではなく白黒印刷となっています。せっかくの子ども達の活躍している写真なので、カラー版を見たいということは至極当然な話ではあります。

- ・学級だよりは、先生方の思いとしては、子ども達に直接紙文書を見せながら配布したいという気持ちが強いです。保護者はカラー版でみたいのです。このギャップをどうするかです。
- ・カラー印刷は金銭的に高く、本校では特別な場合のみカラー印刷を許可しています。
- ・学校HPに学級だよりをアップするということも考えられるが、子ども達の顔や氏名等の個人情報のかたまりともいえるべき学級だよりを学校HPにアップすることはできません。
- ・学校だより同様に学級だよりもメールで送信するが、紙文書でも今までと同様に子ども達に配布するということが対応していきたい。

●学校だよりをデータで送付しますが、それをSNS等で拡散させないことが原則となります。

【学級経営】

■娘は楽しく通学しており、先生方のご指導に感謝いたします。クラスの間人間関係について、先日面談でお話しした内容が気になります。

■こんなにあたたかで熱心に御指導いただける学校は他に無いと思っております。保護者としては安心して親子共々毎日充実で感謝しております。

■他学年と一緒に行う活動を通して、上級生の良いところを吸収しています。

低学年の子供には理解が難しいコロナ関係の話を分かりやすく説明して下さって、急な変更があっても子供が混乱せずに学校に通えています。

◆子ども達は学校・学級という社会の中で生活します。たとえ本校が小規模校で会ったとしても複数の他人と関わることとなります。関わればいろいろと問題も発生します。この友だちとの関わり方を、実践しながら学んで行くことはとても大事なことです。「雨降って地固まる」ではないですが、いろいろと問題が発生するのが子ども達の社会です。問題は雨がいつまで降り続くのか、問題が起きている最中は、なかなか見通しが持てないときがあります。先生方もその点を考慮して仲裁等に入りますが、問題がなるべく子ども達の中で解決されることを望みますが、時にはそういうわけにもいかない場合もあります。時には保護者の皆様と一緒に、地が固まる方向を目指せればと思います。

【家庭学習】

■いつも丁寧できめ細やかな御指導有り難うございます。学習面での評価は、まだ日本人学校に来て半年しか経っていないのと、家庭学習の改善課題があると考えている為、少し厳しくなっております。学校での指導については充分であると認識しております。今後とも宜しくお願い致します

■自主性を育てる為に、宿題を工夫して下さっているのが伝わってきました。子供も与えられた課題をこなすのではなく自ら学ぶことを身につけています。

◆子ども達の学力向上を目指すには、家庭学習はとても重要な位置にある。学校教育が有効的に機能するためにも、家庭学習は重要であることは勿論である。学校でも宿題の出し方や家庭での自主学習の取り組ませ方等々、話題になることは多い。誰もが関心が高いところであります。

・重要だからこそ、保護者と教員が連携して、うまい方向に導くことが出来ればと思う。本校の長年の取り組みの成果が、少しずつではあるが現れているのではないかと考えています。

【集金方法】

■集金袋の制度は、今の時代どうにかならないのでしょうか。

◆集金のことですが、銀行引落制度が使えないかという御指摘だと思います。

・確かに子ども達に現金を持たせることの危険性や、キャッシュレス時代での集金は、正に時代遅れの行為ということですが、本校は下記の理由で現金集金を続けさせていただきます。

●銀行引落制度にすると、以下のような題点が出てくることになりました。

- ・口座利用のための手数料がかかること。
- ・各担当が口座を確認しなければならず、また銀行へ行く手間がかかり時間を奪われること。
- ・少人数であることから現在実施している現金の集金が簡単であること。

◆現状では低学年児童の場合、保護者の送迎時に保護者から直接渡していただいているので、事故等を防ぐことが出来ることがあります。

【英検を本校で実施する事について】

■コロナ禍にもかかわらず、英検をしかも二次試験まで実施していただきまして本当にありがとうございました。

◆本校では過去には英検を本校で実施していた経緯がある。ここ数年間実施していないのは、本校児童生徒からの要望が無かったことによります。今回、本校ではなくインター校に通う子どもの保護者から英検を行って欲しいとの要望が出されました。コロナ禍で英検実施している会場に移動できないことが理由でした。

・英検実施となると、本校の先生方の勤務のあり方とも関連し、どのような体制で実施する事が出来るのかとても不安でした。また、手数料というお金が介在して、更に円払いとユーロの通貨の違いで外貨払いでの差額生じること等々、様々な課題があることが分かりました。

・昨年度の学校評価で記載されているが、年度途中の編入生徒の保護者から、「英検を実施しないのは・・・」という苦情が寄せられ、今年度はコロナ禍ということもあって、本校の内外から英検実施の要望が寄せられました。

・まずは一次試験を実施するという事で、職員会議で先生方が係分担（時間外勤務）して、実施していこうということとなりました。そして第1回目の英検を実施する事が出来、無事終了しました。

・英語担当教員が2次試験の資格を何とか取得するという事で、結果的に短期間に取得する事が出来たので、今回は第2回目の英検を実施し、二次試験も行うことが出来、無事終了することが出来ました。コロナ禍にあって、他会場に行くことが出来なかった今年度の本校の実施は、とても大きかったと考えています。今後は土曜日実施ではなく、金曜日開催を考えたいところがあります。